

北広島団地内小学校の統合についての報告会

と き 平成 21 年 2 月 2 日 (月)

ところ 緑陽小学校 地域交流室

じかん 19 : 00 ~ 20 : 20

参加者 17 名

市長部局 企画調整課長 木下 信司
児童家庭課長 八町 史郎
土木事務所長 槌本 英秋

事務局 教 育 長 白崎 三千年
管理部長 小菅 敏博
教育施策推進担当参事 工藤 正
主査 川合 隆典
主事 木村 洋一郎
教育相談員 宮村 昭

-
- 開 会 19 : 00 進行司会 小菅部長
 - 出席者自己紹介 19 : 00 ~ 19 : 05
 - 教育長挨拶 19 : 05 ~ 19 : 10
北広島団地内小学校の統合及び本日の報告会の主旨説明
 - 統合決定までの経過について説明 19 : 10 ~ 19 : 30
工藤参事から、資料に基づき説明
 - 参加者からの意見、質問 19 : 30 ~ 20 : 20

事務局 それではこれから質疑応答に入らせて頂きます。

住 民 質問させていただきます。

私の子どもは、新しい学校が開校するときは新 6 年生になります。その中で一番心配なのは、新しい学校で新たなグループで勉強などをするようになると、問題が発生しやすくなると思います。資料の中の検討事項の児童の交流事業についてですが、協議会を立ち上げてから行なうようですが、できるだけ早く両学校の児童交流をしていただいて、学校が将来一緒になることを認識して、スムーズに統合ができるようにして欲しいと思います。本当にできるだけ早く授業交流などをしていただきたいという要望をしておきます。

事務局 今のご要望につきましては、言われるとおりにしていきたいと考えております。

今後は統合準備協議会におきまして、校名、校歌、校章などを含めましてできるだけ早く決めていきたいと考えております。

住 民 私は松葉町2丁目に住んでおります。私の息子は2年後に緑陽小学校に入学して、2年生から高台小学校の校舎に通学します。実は、松葉町2丁目は緑陽小学校に通学するよりも、広葉小学校に通学するほうが距離的には大変近くなっています。また、緑陽小学校までの通学路を夏に確認しましたが、大人が歩いて一人では怖いと思われるところを通ります。それは、民家が非常に少なく、山の間のような所を歩きますので、後ろから誰かが来ると、大人でも一人だと怖いところを、子ども一人で通学するのかなと思いつつ確認しました。区域外通学について弾力的に対応すると言っていますが、学校に入学するまでにまだ2年ありますが、前もって申請などをしておけば広葉小学校に通学することを認めてもらえるのでしょうか。

事務局 今回の学校統合におきましては、区域外通学を弾力的に認めていく考えでおりますが、区域外通学という制度につきましては現在もあります。区域外通学につきましては個々の事情もありますので、申請をしていただいたそれぞれのケースごとに判断しております。ただ、今のお話についてですが、広葉小学校と若葉小学校につきましても学校統合を予定しております。仮に、広葉小学校に入学しましても、1年後には若葉小学校の校舎に通学しなければなりません。このような状況もありますので、保護者の方からどうしたら子どもにとって良い状況になるかについて協議をしていただいて判断していくこととなります。さきほども言いましたが、区域外通学の制度につきましては現在もありますので、今申請をして認めるということではなく、その時点で個々に申請していただいて判断していく考えでおります。

住 民 第四住区の住民の立場から質問させていただきます。

少子高齢化については、かなり以前から言われていました。最近出てきた問題ではありません。1月24日には全国市町村の人口推計も示されています。35年後の北広島市の人口も示されています。また、1月末には特殊合計出生率も示されました。そこで、北広島市の特殊合計出生率はどのくらいでしょうか。

事務局 正確な数字は確認できませんが、1.23程度ではなかったかと思えます。

住 民 1.23ということになりますと、北海道は1.20だとおもいますが、決して多くありませんので、どんどん減っていくことは確かです。

今日は、説明会ではなく、報告会ですから学校統廃合に対して地域として反対するものではありません。今回の統廃合に至るまでの経緯については広報等で十分に承知しています。地域として、統廃合後に地域の中心である学校が無くなることで、活性化・活力が失われていくという見方も出てきます。私は、市の団地活性化委員会にも出席しました。教育委員会としては、そこに参加しているのでしょうか。

事務局 団地活性化委員会に直接参加してはおりません。

住 民 団地活性化委員会は市全体のことです。市長部局だけではなく教育も含んでいます。3月24日に2回目があるようですが、是非、その場に参加して、学校の跡利用について、今後の対応について教育委員会として具体策を示さなければならないと思います。ただ、学校が無くなったというだけでは、地域としてはありがたい話ではありません。しかし、決定した話ですから、ここで反対をするものではありませんが、その後に、どのような青写真を示すかが教育委員会としての役割ではないでしょうか。そうでないと、言い方が悪いかもしれませんが、地域としては踏んだりけったり感じになります。1月29日の団地活性化委員会では、例えとして学校の跡にレストランやラーメン屋をつくろうとか、あるいは生協を誘致するとか、メリットを示していただかなければ、さびしいだけの話になります。何度も言いますが、今回の学校統廃合に対して反対するわけではありませんが、統合準備協議会には跡利用については検討項目に入っていないので、学校の跡利用については早急に示してもらいたいということを要望します。

事務局 ただ今の件につきましては、要望として承らせていただきますが、学校の跡利用についての基本的な考えをお話させていただきます。

学校の施設は、もっぱら教育のために使用するというので、国からの補助で建設した施設です。学校統合によって使用しなくなる学校につきましては、市役所全体、全庁的に検討する組織を作り、それとともに市民の皆様方の意見などいただきながら、どのように利用するかを協議するというので、現在進んでおります。あくまでも、統合後に使用されなくなる学校の跡利用につきましては、全市的に協議・検討を進めていくことにしております。

住 民 今まで、説明会に参加することができなく、今回初めて参加させていただきましたので、わからない事がありますので、教えていただきたいと思います。資料については学校や、幼稚園などから何度かいただいております。一番新しい数字を教えてくださいたいのですが、統合後の児童数、学級数、教員数を教えてください。また、今後の予定にあります統合準備協議会の構成メンバーはどのように選定して、どのような方が何人になるのか教えてください。

事務局 児童数、学級数につきましては、平成20年5月1日現在の住民基本台帳から推計したものをお知らせしております。統合後の学校ですが、平成24年は242名10学級、平成25年は215名9学級、平成26年は200名8学級と推計しております。また、それに伴う教員数は学級数に応じて決定していきますが、標準的な基準に基づいて言いますと、現状の6学級では9人、10学級の場合は13人、9学級は12人、8学級は11人となっております。

なお、統合準備協議会のメンバーにつきましても、今後協議をしていくことになります。ただ、決定ではありませんが、現在想定している構成メンバーは保護者、地域の代表の方、学校関係者と教育委員会職員を考えております。このメンバーは

現在の各小学校区から出していただこうと考えております。人数につきましても決定しておりませんが、1校当たり7名から8名を考えておりますので、高台小・緑陽小では合わせて14名から16名程度と想定していますが、まだ決定しておりません。

住 民 何年かかけて統合をすることになるようですが、統合までには色々な問題もあって大変だと思います。実際に統合して学校が始まっても、児童や教師の間でも問題があると思います。教員の加配について言っていましたが、一人でも多くの教員を配置することによって、円滑に統合できるようになると思いますが、そのようなことも考えているのでしょうか。

事務局 学校統合による定数上の特別な制度はありませんが、仮に加配をしようとすれば、市単独の予算で措置することになります。市教委としましては、統合校だけに加配をすることにはなりませんし、財政的にも非常に難しいと考えております。そこで、現在考えていることは、市内の学校にも配置されています少人数加配教員制度を利用すること。また、子どもに対して目を行き届きやすくする工夫を学校にしてもらうことや、北広島市独自で行なっている授業補助員制度というものがありますので、この制度も活用して、統合時には手厚くしていくことを考えております。

今、おしゃられたように、学校統合による子どもの精神的な不安は大きいと思っておりますし、先生方同士でも同じだと思っております。そのため、統合の際には新しい学校になるわけですが、先生方を全て新しい先生にするのではなく、両校の先生を中心に教員配置をするよう努めたいと思っております。また、今の両校の先生方は、北広島市の教育研究会「広教研」といいますが、この広教研に所属してお互いに良く知っていますので、そのメンバーで学校を立ち上げたいと思っております。

住 民 説明の中で、通学距離が1.7kmと言っていましたが、これは統合によって若葉小学校と高台小学校に通学する距離でしょうか。

事務局 1.7kmという距離についてですが、これは今回の学校統合によって、広葉小学校と若葉小学校が統合して通学距離が最大になる距離です。場所としましては北広島駅近くのマンションから若葉小学校の校舎に通学する場合の距離です。

住 民 わかりました。市内の小学校で徒歩通学距離が長い子どもはどのくらいでしょうか。

事務局 年度によりまして、通学する子どもは変わりますが、現在は2kmを超える子どもがいます。

住 民 現在、市内では2km強が最大ということですか。

事務局 平成20年度ではそのようになっています。

住 民 学校の校舎は国の補助で建設されていると伺いました。緑陽小学校の場合は平成24年度に高台小学校に統合になりますが、残った校舎を地域の活性化のために使う考え方が出てくると思います。そのときに、私達市民からの要望が受け止められる

のでしょうか。残った校舎を利用するので、できないこともあると思いますがその点はどのようになりますか。

事務局 緑陽小学校として利用しなくなった時点で、教育財産としての使用を廃止します。学校の校舎ということで国の補助をいただいておりますが、全国的にも少子化などによる学校統合が増えており、残った校舎についての跡利用は、事前に国への協議が必要になりますが、教育財産以外の使用に対して緩和されています。そのため、使われなくなった校舎につきましては、市全体で協議をして有効利用を考えていきます。緑陽小学校の校舎につきましても、維持管理を適切に行なえば、今後まだ25年以上は使用できます。この校舎は市民の皆さんの貴重な財産ですので、市全体で検討し有効利用をするよう進めております。

住 民 市の公共施設は有料化になってきています。先のことになりますが、緑陽小学校の校舎が市のものになるということは、有料化の問題が係わってくるのでしょうか。現在は緑陽小学校の地域交流室は無料になっています。

事務局 緑陽小学校の地域交流室は、現在は学校の施設の一部です。学校での利用を最優先にして、学校で使用しない時に地域に開放するために内部改造しています。

市の施設の有料化につきましては、市民の皆さんの意見なども聞きながら有料化すべき施設と、そうでない施設を検討してきております。統合後に使われなくなる校舎につきましては市の普通財産になり、今後跡利用を考えていくこととなりますので、今の時点で有料化についてお答えできませんので、ご理解をお願いします。

住 民 統合準備協議会は2つ作られるということによろしいのでしょうか。高台小学校と若葉小学校に。

事務局 今回の統合は、広葉小学校と若葉小学校、高台小学校と緑陽小学校を統合しますので、それぞれの統合校毎に統合準備協議会を立ち上げたいと思っております。

住 民 統合準備協議会で協議される具体的な事項について、告知はどのような形で行なわれるのでしょうか。地域にも密着した問題点がたくさんあると思っておりますので、どのようなことが協議されるかについて告知されるか伺います。

事務局 お手元の資料の中で、今後の予定というところがあります。その中で、予定している協議会メンバーを示しております。また、検討を予定している大きな項目についても示させていただいております。協議をしていく中では、それ以外の項目も出てくると思っておりますので、現在の段階では、資料にあります大きな項目になると考えております。

住 民 協議を進めていく中で、地域にも関係することが出てきたとき、地域の意見が反映できる場面があるのでしょうか。協議会委員の個人的な見解だけで決定されるのでしょうか。

事務局 協議会メンバーにつきましても最終決定ではありませんが、学校の代表、保護者の代表、地域の代表の方々に教育委員会も入って協議していこうと考えております。

その場合は、それぞれの代表という立場で協議していただくことになると思っておりますので、その中で進めていきたいと思っております。

事務局 これまで統合協議会的なものをつくってきた市町村では、そこで話し合われたことについては「協議会ニュース」などで、その都度、進展状況など、学校を通じて配布したり、ホームページに掲載しながら周知しています。当市におきましても同じような形で周知したいと考えております。

住 民 小学校の適正規模が 12 学級から 24 学級という答申があつて、今回の学校統廃合になったと思います。新しい高台小学校の場合は、統合しても適正規模になりません。そこで、将来的に若葉小学校と高台小学校が再統合ということがあるのでしょうか。お答えにくだいでしょうか。当分再統合はないというお答えでしたらいいのですが。

事務局 高台小学校と緑陽小学校を統合しますが、その基本的な考え方は、できるだけ距離的に近い校区で、児童や保護者の方に不安を与えないということで統合の組合せを考えました。その場合、適正規模の基本的な考え方が確保されない状況も想定されましたが、審議会の考え方は児童や保護者の不安などを考え、高台小学校と緑陽小学校、広葉小学校と若葉小学校の組合せで統合することが妥当であるとなりました。また、少子化につきましては、全国的な問題として国の方でも少子化対策に取り組んでいる状況です。当市におきましても取り組んでいます。現在の状況では、北広島市だけではなく石狩管内、北海道の状況をみましても児童数が減少していくものと考えられますが、地域的な宅地状況や戸数を考えていきますと、北広島団地内については小学校 2 校の考えでいます。

住 民 以前の説明会では将来的には緑陽小学校の新生が 1 桁になると言っていました。今後の新 1 年生の人数を教えてください。

事務局 平成 20 年 5 月 1 日現在の推計になりますが、緑陽小学校は平成 20 年 22 人、平成 21 年 21 人、平成 22 年 27 人、平成 23 年 14 人、平成 24 年 13 人、平成 25 年 14 人、平成 26 年 13 人で、高台小学校は平成 20 年 23 人、平成 21 年 21 人、平成 22 年 25 人、平成 23 年 15 人、平成 24 年 10 人、平成 25 年 10 人、平成 26 年 17 人となっております。

住 民 団地内の小中学校の校舎の耐震化はどのようになっていますか。

事務局 団地内の小中学校の校舎は、すべて昭和 56 年以前に建設されたもので、耐震の調査が必要になっています。高台小学校、緑陽小学校とも耐震診断調査は終わっており、それに伴う補強工事も終わっております。

住 民 市長部局の方もいらっしゃいますが、個人的な要望をいたします。レクの森に野球場ができ拡大すると聞いています。そのことに伴って、緑葉球場などが無くなる不安があります。小学校も無くなり野球場までもが無くなると、この地区は大きな痛手になりますし、さびしくなります。今は、週末になると少年野球などを楽しく

拝見させていただいております。レクの森を拡大するのではなく、団地のこの辺のスポーツ施設を充実させて、みんなが住みやすい街にして欲しいと思います。要望としてお話をさせていただきました。

事務局 先般、新聞報道されました運動公園についてですが、総合運動公園用地として確保していた土地を有効に活用するという発想で、広場として計画しています。正式な野球場やサッカー場にするということではなく、芝生のグラウンドと土のグラウンドを整備して、散策路を作ってレクの森と一体化しようとする計画です。基本的には、今ある施設、例えば、緑葉球場やサンパークのサッカー場をさらに充実させていこうとしています。総合運動公園に野球場を作って整備する考えは、現在ありません。

今日は、新しい学校づくりに向けてのご意見なども含め、質問がありました。子どもたちにとって、今よりもさらにより良い教育環境を整えるということから、今回の学校統合問題が発想されました。さきほども、ご意見がありましたが、地域や保護者の方々からの意見、新しい教育課程に向けての子どもたちの意見なども含めて、新しい学校づくりに向けて取り組んでいきたいと思っております。その新しい学校づくりに向けてですが、子どもたちにとってどうか、を基本にしながら、是非ご意見をいただきたいと思っておりますので、このような場面だけではなく、色々な機会にご意見等をいただくことを心からお願いいたします。今日は、本当にありがとうございました。

(注) 発言を要約したものであり、発言すべてを記述したものではありません。